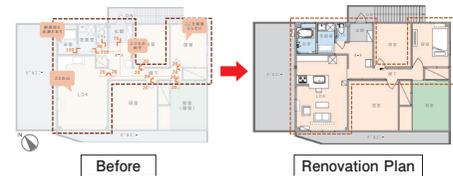


「P-1グランプリ」。それはリフォーム実績年間2万件以上を誇るパナソニックエイジフリーの社員が、「フランナー」としての人間力、「プランニング力」「プレゼン力」を競い合う、年に1度の社内コンテストだ。2001年から始まり、2024年1月23日、第23回が開催された。その第23回では、パナソニックエイジフリー首都圏東リフォーム課の三上莉穂さんが事例「心機一転」を発表した。本人の想いをきめ細かくくみ取りながら希望通りの住環境にリフォーム。生きる意欲も取り戻した事例だ。

70代のTさんは自宅の洗面室で段差につきまつき、転倒して救急搬送された。左大腿骨転子部を骨折し、手術して間もなく、今度には右の肋骨も骨折。介護度は要支援2。筋力・体力の低下に加え、痛みで身体が思うように動かせなくなったことから徐々に気持ちも沈んでいき、趣味のテレビ鑑賞すら楽しめない生活を送っていた。ケアマネジャーを介してフランナーの三上さんのもとに住宅改修の相談がきた時点では、掃除やゴミ捨ても行き届いていない環境になっていた。

ただ、そうした中でも本人には「本当は綺麗な部屋で、こんな暮らしがしたい」と、希望があることに気づく。丁寧に聞き取ってごくと、Tさんは「もう二度と転びたくない」と、あらゆる段差解消を希望したのを始め、掃除や洗濯、食事の後片付けが楽にできること、バーカウスターのような椅子に座って食事を楽しみたいことなど具体的な要望を三上さんに話した。



三上さんは段差解消と手すりの設置を行うとともに、清潔な暮らしを維持しながら、気持ちも満

## 『人生これから』 —暮らしも気持ちもリフォーム

たされる日々を取り戻すことを目標とした。パナソニックの営業部門と連携を取りながら、住宅改修と福祉用具・家具購入の対応を行なった。

寝室は床全体を20mm高上げし、トイレや洗面室への出入り口も段差はゼロに。移動や立ち座りの補助のための手すりもアクセスメントで適切な場所に取り付けた。一方、営業部門はTさんが家事にも前向きに取り組めるよう、食洗器や身体に負担をかけずに洗濯物を干すことができる自動昇降の物干しなど最新家電を提案。希望していたバーカウスターも設置した。

「段差もなくなり本当に良かった。綺麗になったいろいろな家具を揃えたい」。Tさんはリフォームに心からの満足の笑顔を見せた。そして完工から3カ月後、モニタリングに訪問するとお酒を飾るお洒落な棚が増えていたり、自動昇降機能付きの物干しも活用されている様子がうかがえた。何より、Tさんから「今度は壁掛け式の8Kのテレビを購入してオリンピックが見たい」などと未来に向けた話が増えたことが嬉しかったと、三上さんは話した。

日本工業大学建築学部・野口祐子教授は、「フランナーがご本人の暮らしの問題点を捉え、丁寧に聞き取ることで徐々に希望を表現できるようにいった。段差解消や手すりの設置を重視しつつ、さらに男性高齢者の負担が大きい家事をサポートする機器類の導入、バーカウスターなど、生活に彩りも加えることができた」と、本人に寄り添う気持ちで関わり続けたことがリフォームの質を大きく高めたと評価した。



改修後



改修前



くらしの中で「できる」ことを増やし、そして、次に「やりたい」ことに向かっていただきたい、そんな思いをシンボルマークにしました。パナソニックの介護用品で「心身が前向きに、その先に歩みだす」。私らしくいきいきとしたくらしを実現できる社会を創ることそれが私たちの存在意義です。



パナソニック エイジフリー

エイジフリーショップ

お問い合わせ先：営業企画部 06-6908-8122

